



# 日本SPF豚協会

だより | 2017. 10  
No.69

私は野球少年でした。今思い返せば、基本練習に明け暮れていたのですが、これがきつく、面白くありませんでした。ところが、随分野球から遠ざかっているのに、たまにキャッチボールとかすると、基本動作ができていて我ながら驚きます。

野球評論家の野村克也氏は解説で「困ったときの外角低め」と何度も言っています。長打の可能性は低く、大げがはしないということでしょう。これを基本に配球すべきだと力説していました。キャッチボール（基本）ができないのにダブルプレー（応用）ができるはずがない、わけです。

では、養豚の基本とは何でしょうか。

農場を訪問する中で、豚がトラブルなくすくすくと育つにはどうすればよいのか、日々頭を抱えています。豚と会話できれば、とさえ真剣に思っています。

養豚を取り巻く環境（法規制、豚舎、飼養機材、育種、栄養管理など）は日々変化し、進歩しています。デンマークでは、1母豚当たり40頭を超えるような年間子豚離乳を実現しています。いわゆる多産系種豚です。しかし、多産系種豚も今までの種豚も同じ“豚”です。水も飲めば、エサも食べる。飼養管理の基本は、きれいな水を十分飲めるか、きれいなエサを十分食べられるか、きれいな空気、きれいな寝床で寝られるか、でしょう。中でも水が基本中の基本です。

数年前、ドライフィーディング農場で厳冬期に給水管が凍結、肥育豚に水が当たらなくなることがありました。それまでエサが当たらなくなることもありましたが、豚の反応はその時をはるかに超え「水くれオーラ」が半端ではなく、水がいかに重要か、再認識しました。

また、水を十分飲めないのを豚が諦めてしまっているのではと思うときもあります。エサ箱に水を入れてやると

## 提言

# 養豚の 基本とは？

日本SPF豚協会理事  
ホクレン畜産生産部主任技師

こもろ さとる  
小師 聡



ゴクゴク飲む。やはり諦めていたのだと確信します。

今から30年ほど前、いわゆる“ドブ飼い”（半土管の中にエサと水を入れる方式、今のリキッドフィーディングに近い!?)の農場がありますが、1日に数回は確実に水もエサもあたる状況でした。しかし、現在は給水・給餌も自動化され、機械任せになっている面も否めません。飼養管理者の、豚への観察眼、異常に対する察知能力が、より求められると思います。

そこで皆さんに提案です。“水”をキーワードに、豚と今一度向き合ってみませんか？

ちょっと待てよ！水を十分飲める環境を豚に提供することは、巷で話題のアニマルウェルフェアの一つではないのか？古来、日本人は家畜と同じ家屋に住み、家族として暮らし、大事に、大事に飼ってきた歴史があります。“獣魂祭”“畜魂祭”など、命をいただく感謝と供養をしているし、食事の前は“いただきます”です。これこそ、アニマルウェルフェアの原点ではないでしょうか？日本人はずっと以前から取り組んできたとも言えるし、魂の根幹に染みついていると思うのです。海外から入ってきたアニマルウェルフェアという概念に加え、日本人の、豚に対する優しさがプラスされれば、世界最強のアニマルウェルフェアになるのではないのでしょうか。